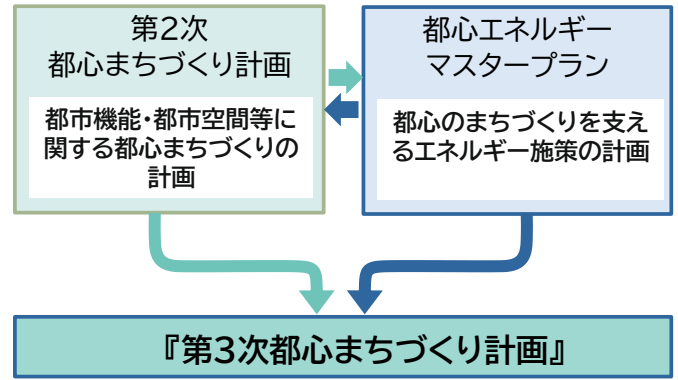


1 計画策定の背景、目的と位置付け

計画策定の背景

- これまで、札幌の都心は、都心まちづくりの計画とエネルギー施策の計画を両輪としてまちづくりを推進してきました。
- 今後は二つの計画を統合し、都心まちづくりの総合性と一体性の確保・強化を図り、重点戦略を明確化し、進行管理の一体化による実効性を確保することで、「質の高い都市機能」と「持続可能な環境性能」を兼ね備えた都心を目指します。



本計画の目的

- 本市の最上位計画である、第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン(以下、「第2次戦略ビジョン」という。)において、都心を『北海道・札幌市の魅力と活力をけん引し、国際競争力を備えた高次の都市機能が集積するエリア』と定義し、目指す姿を示しています。
- これらの目指す姿及び計画策定の背景を踏まえたまちづくりを実現するためには、行政だけでなく、市民、企業、地域のまちづくり関係者など、多様な主体との連携・協働が不可欠です。
- 本計画は以下三点を目的として策定し、第2次戦略ビジョンで示す都心の実現を目指します。

- 次世代に引き継ぐ長期的な札幌都心の目指す姿を明確にし、市民や事業者をはじめとする関係者と共有する
- 本計画で示すまちづくりの方向性を、札幌都心の可能性と魅力を国内外に発信するツールとして活用し、都心まちづくりに関わる人々の輪を広げる
- 取組の方向を体系的に示し、具体的な推進方法を提示することで、公民連携によるまちづくりを確実に実行していく道筋を示す

計画期間

- おおむね20年後の将来を見据えた計画とすることを基本としつつ、社会経済情勢の変化や関連計画の変更などを踏まえて、本計画の基本方針や取組の方向などを随時見直します。

計画対象区域

- 第2次戦略ビジョンに示される都心の範囲を踏襲し、①JR札幌駅北口一帯、②大通と東8丁目・篠路通の交差点付近、③中島公園の北端付近、④大通公園の西端付近を頂点とする、ほぼひし形に広がる区域とします。
- 都心の機能強化につながる取組については、計画対象区域に関わらず柔軟に対応していきます。
- 本計画における取組の進捗や効果をモニタリングしていくため、境界を明確にした進捗管理区域を設定します。

